

—牧師室から—

参議院選挙の投票率は、半数をはるか下回る史上最低であった。国民の政治不信はますます深まっている。まず、数合わせのための政党の離散、集合が政治理念を見えにくくした。そして政治不信の最大の原因は、政党・政治家たちが責任を取らないからではないかと思う。今回の選挙で、党是を変質させた社会党の惨敗はもとより自民党もさきがけも敗北した。しかしこの三党が、数が足りているので、同じ村山政権を続けるという。その理由は、経済不況時に、政治的混乱を避けたいということらしい。

多党化している現在、連立政権は当然であろう。しかし、連立政権の第一党から首相を出し、責任の所在と指導性を明確にすべきであると思う。田中角栄元首相がロッキード事件で退陣した後、「閣将軍」として力を振るい権力の二重構造を作った。以後の政権はこれを踏襲している。この権力の二重構造は誰に責任があるかを曖昧

にする。

私は日本文化論を論じるほどの学識はないが、責任を取らない日本人の不気味さを感じる。衆議院はもめ抜いて「50年決議」を出したが、肝心のアジアの被害者には謝罪の声は届いていない。従軍慰安婦問題は、国家には関わりなく、民間募金で慰謝料を払うという。彼女たちは二重の屈辱だと怒っている。オウム真理教は、あれだけの犯罪を犯しながら、なお生き延びようと画策している。この無責任体質は何であるのか。

人は罪を犯し、間違いは避けられない。それに対し謝罪し応分の責任を取ることによって「人間」になる。国家も同じく責任を負うことによって、国際的に認知されるのではないか。

私たちの日本基督教団が「戦争責任告白」を出した時、強い反対意見があった。謝罪・責任表明は難しいことではあるが、決して不名誉なことではない。ここから互いの受容と「共生」が始まる。キリスト教は、悔い改めによる和解決を「福音」と告げている。

週 報

1995年7月30日 聖霊降臨節第9主日

平和聖日礼拝

巻16

18号

1995年度教会主題

「恵みに生きる」

聖句 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。

コリントの信徒への手紙 二 12章9節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話 045-833-5323

ファックス 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧師 秋 吉 隆 雄